

関西いのちの電話広報誌

No.111 号 2002 年 2 月 1 日発行

< 見出し案内 >

* フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」活動報告
関西いのちの電話自殺予防いのちの電話実行委員会委員長安田一之

* シリーズ「共感ってなに？」長尾文彦

* 「38 期相談員募集」* 「創立 28 周年記念バザー開催される」

* 「相談員ノート」* 「季節の俳句」* 「字遊帳」

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」活動報告

関西いのちの電話自殺予防いのちの電話実行委員会委員長安田一之

実施期間:2001 年 12 月 1 日(土)0:00 ~ 7 日(金)24:00(24 時間体制)

< 期間中受信件数:499 件 >

自殺者が年間3万人を超えたことに危機感を抱いた厚生労働省は、自殺予防活動の必要性を痛感して「日本いのちの電話連盟」(以下連盟)にフリーダイヤルによる電話相談を委託した。連盟に登録している全国48局のいのちの電話センターがこれに協力して昨年(平成13年)の12月1日から7日の間「自殺予防いのちの電話」としての活動をし、関西いのちの電話も24時間態勢で積極的に参加した。その報告をする。通常の相談活動に加えての特別な活動であるだけに、相談員がこれに応募してくれるかの不安があったが、募集してみるとそのような危惧を吹き飛ばすような応募があり、関係者一同はほっと胸をなでおろした。

2台の電話器を用意し、相談員はこの間に2回の当番に出ることとして、11月に研修会を行い当日に臨んだ。

11月30日午後11時に相談員3名と関係者が集まり緊張の面持ちで打ち合わせをし、開始の時を待った。0時。その時間を待っていたかのように電話がかかってきた。ほんの数秒後に次の電話がかかり2台の電話器は機能しだした。以降は電話器を置く

とすぐにかかってくる状況で、この電話に対する期待の大きさが感じられた。
期間中の「関西いのちの電話」での受信数は499件でその内容は以下の通りである。

男性女性合計

人生 9178169

家族 47478

夫婦 132437

男女 51419

対人 121931

保健医療 345084

教育 303

性 5611

法律経済 121022

情報 81523

相談外 14822

合計 201 件 298 件 499 件

まず目に付く特徴は男性の相談が多いことと、相談内容として「人生」に分類されている項目が多いことである。前者について、通常の相談では男性は35%であるが今回は40.3%になっている。

さらに細かく見ると、通常では40代50代の男性が占める割合は27.5%だが今回は44.5%もあった。後者では「人生」、特に不況による失業で生活への不安を訴えるのが多数を占めていることが挙げられる。

年代別に訴えの特徴を簡単に紹介する。

ある中学生は「何かに期待して裏切られるのは嫌。もう死んでしまいたい」と約2時間話し続け、「気持ちを立て直してやってみる」と言って電話を切った。受けた相談員は「始めはどうしようかと思ったが、気持ちを立て直してやってみる、と言われほっとした」と感想を述べている。

20、30代では「健康の不安・孤独・自分の子供が好きになれない」等が中心である。40、50代では「リストラで失職・自己破産・事業に失敗し債権者に追われている」等々不況の波をまともに受けた人々の追い込まれた状況からの訴えが増える。女性からは「夫の不貞・夫の過労死・子供の問題行動」があり、家庭を中心とした悩みが多い。その中で「夫が過労自殺をして自分も死にたい。でも子供がいるのでそれもできない」という訴えが目についた。この年代の男性の自殺が多いことを考えると心痛むものがある。

印象的なケースとして「失職して、そのことを男の面子で妻に言えないので、今まで口

ーンとかで何とかやってきたがもう限界。死ぬしかない」というのがある。何ともやっかいな「男の面子」であるが、自殺と面子(プライド)との関係が深いと言われているのを考えると、気になるケースである。

60代以上では60代38件、70代15件、80代5件あり「孫の問題・孤独・健康・嫁姑の問題」等の不安が訴えられた。

「自殺志向段階別」で分類すると、「自殺念慮」137件。「危険有」21件。「自殺予告・通告」4件で、幸にも「自殺実行中」の訴えはなかった。

「危険有」では「債権者の取立てが厳しい。もう明日はない(40代)」「地震で全て失った。昨年妻も死んだ。生きていても何も無い。明日死ぬ(50代)」と切羽詰った感じで、残された道は「死」だけという内容だった。

ある相談員は「死んだらどんなに楽だろうと思うが、死ぬ勇気もない」という訴えを聞き、「死ぬ勇気もないものは生きる勇気もないのか。生きる気力もないが、死ぬ勇気もない、はざま。電話をかけてくる人はこの深い苦しみの、はざまであえいでいるように思える。生きる意味のようなものを求めて電話をかけてくる人に、どう応えるのか」と感想を述べていた。この「どう応えるか」を、改めて考えさせられた一週間であった。

(注意 = 訴えの内容は秘密保持のため、本質を損なわない程度に変更が加えてあります)

【創立28周年記念バザー開催される】

創立28周年記念バザーは、昨年11月3日(祝)に開催されました。朝から降り出した雨は止む事を忘れ本降りとなりました。でも入場者の波はとどまる事はなく、次から次へと流れて、幕開けは好調な滑り出しでした。いのちの電話のバザーも地元にはすっかり定着したのでしょう。天候の急変に模擬店はグランドから博愛社の奥に店替えをし、入場者を呼び込むのに必死でした。温かいものが喜ばれ「おでん」等は早々に完売しました。寄贈品会場の入口には道化師姿の係員もあり、雨のうっとおしい気分を晴らすのに役立ててくれました。

また、予想以上の献品を戴き、通路にまで並びました。券1枚で「当り」をひくと連続3回まで楽しめ、たくさんの賞品がもらえる子供ゲームは人気を呼んでいました。

ロタリー券は、例年以上の賞品の数を企画してまんべんなく当選になるように配慮したつもりでしたが、全ての人にはいきわたらせませんでした。景気低迷が続く中、150万円余りの収益を得ましたことは皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。また、多くの企業の方からの援助を戴きましたことに感謝し厚くお礼申し上げます。バザ

ーチーム

協賛企業名いずみホール様江崎グリコ(株)様(株)クレシア様
コクヨ(株)様東リ(株)様(有)なかの様
松下電器産業(株)様 (50音順、有難うございました。)

【相談員ノート】「出会い」35期M.K

月2回の電話当番にひーふー言いながらも、認定をいただいて1年が経とうとしています。思えば、この研修期間に仕事関連のワインの試験勉強が重なり、忘れられない半年間がありました。あの時の私を支え見守ってくれた仲間感謝の気持ちも込めて、私が出会った感動を書きたいと思います。この試験というのは暗記以外の何者でもなく、気の遠くなりそうな量の中からの出題の類。いかに時間を作り出すか、そして覚えた先から忘れる、どうして覚えようか...の繰り返し。

通勤途中、休日、ゴロあわせ、色塗り、こじつけ、息抜き、名言集、周りの大きさ、自分の非力、合格したい...。そして、加えていのちの電話の研修。試験2週間前、どうしようもなく焦り落ち込んでいた夜、ふとテレビをつけました。

夏休みの水泳教室。全く泳げない小学生の特訓の様子が映っています。

なぜか引き込まれて見続けているうち、試験の場面となりました。練習時に最も水に馴染めなかった男子に順番が回ってきました。しかしその顔は、緊張するとか不安とか格好よく見せようとか、そんなものは一切ない、ただ自分がどれだけ泳げるか頑張ってきたかを試したい、その一心に見えるのです。もし今テレビをつけたばかりの人がいたなら、子供がプールで溺れているとしか見えないような泳ぎです。死に物狂いで進み、息の続く限りを尽くしてついに足をつきました。

「6メートル！」周囲の大歓声。顔を拭き目をキョロキョロさせて母親を探し、満面の笑みでガッツポーズをする男の子。私のあの半年間は、この子に出会うためのものだったんだと、今でもそう思っています。

【第38期電話相談ボランティア養成講座募集要項】

募集期間:2002年2月1日(金)~3月30日(土)

養成期間:1年目2002年4月~2003年3月2年目2003年4月~2004年3月

なお、詳細については返信用封筒に80円切手を貼付の上、下記宛に募集要項をご請求ください。

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

社会福祉法人関西いのちの電話事務局 TEL06-6308-6868FAX06-6308-6180

シリーズ「共感ってなに？」(13)長尾文彦

「共感できない！を活かす」

電話相談の場面で、相談員はしばしば、かけ手の気持ちに寄り添えない、共感できないと感じる時があります。そんな自分に気づくと、「私は相談員として感性がないんだ」などと落ち込んでしまいます。

しかし、冷静に考えてください。まったく知らない二人が、電話を通して対話をはじめたのです。すぐに共感できるわけがないじゃないですか。

かけ手の気持ちがわからない、考え方に同意できない、相手の生き方を認めるわけにはいかないということは当然起こってきます。

聞き手が自分のところの中に動いている「共感できない」「気持ちに今は寄り添えない」と気づくことは、相手を分かるための鍵になるのです。

ひょっとしたら、かけ手自身も自分の中に起こっている気持ちや考え、欲求に気づいていないかもしれないし、気づいていても認めていないかもしれません。

電話相談の対話は、「まだ共感できないところがあるから、あなたの気持ちを聞かせてください」「私とは違う考えを持っているあなたのことをもっと分かりたい」と、相手に関心に向け、相手の気持ちや考え、欲求を質問していくことになるのです。

かけ手が、聞き手を宛先にして、自分の気持ちや考え、いまの状況を十分に語る「場」を提供するのです。語ることによって、かけ手は自分自身の気づかなかつたり、認めてこなかった感情や考え、いまのあり方が明確になってくるのです。

「共感できない」を突破口にして、相手に関心を持つことが、二人が分かり合う作業の出発点なのだと考えるのです。

長尾文雄

注：「相手の宛先になる」という言葉は、鷲田清一著「聴くことの力」から引用。

第20回公開講座のお知らせ

『支えるということ、支えられるということ』講師弁護士大平光代氏

日時：2002年3月16日(土)午後2:30～

場所：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

参加協力費：1,000 円（当日 1,500 円）

事務局へお問い合わせください。

著書「だからあなたも生きぬいて」「あなたはひとりじゃない」

【自遊帳】「父」

子供の頃の家族の様子。とりわけ父のことを懐かしいやさしい気持ちで思い出させてくれる作品がある。

子供の欲目かも知れないが、母も人並以上に行き届いた人だと思う。だが、父があまりにも癩癩もちで口うるさいので、叱られまいと緊張するのだろう。ここ一番という時に限ってよくしじりをした。

お正月の支度を手落ちなく整え、一家揃ってお雑煮を祝おうという時に、ちょっとしたものを取ろうとして踏み台に乗り、手にしたものを取り落として金屏風に穴をあけ、元旦早々父にどなられるといった按配である。向田邦子作「父の詫び状」より元旦の朝になると、母は決まって和服の上に新しい真っ白の割烹着を身につけ、忙しそうに正月のしつらいをしていた。その姿を見て「ああ新しい年になったんだな。」とピンとしたうれしい気持ちになったものだ。でもその思い出と対になって父の苦虫をかみつぶした様な不機嫌な顔が浮かんでくる。真面目で几帳面、融通のきかない性分の父は何かある事に爆発していた。そんな父が母に心から感謝し、詫び、祈ったことがあった。母が病に倒れ献身的に看病した時のことである。おかげで母は奇跡的に回復した。

今ではあのやさしさをどこかに置き忘れてしまったかのようにまた癩癩を起こす父であるが何か憎めない所があり、私の心の奥でいつもあたたかいものが動いている。それがいったい何なのか父が元気な間に感じとりたいと願っている。34 期 Y.U

【季節の俳句～十三句会より～】選者磯崎清

呼ばれたるやうな気がして芒原英子 感性豊かな英子俳句

群青のつらなっており秋の山洋史子 紅葉前の秋の大景

廃屋の垣に名残の曼珠沙華和子

姉妹の馴れぬ鼻緒や地蔵盆喜美子

コスモスの靡く風情にしばし立つ公子

翳雲流れる果てに父母ありき嘉代子
若き日の胸の高鳴り遠花火紀子
稲穂まだ黄金なる日待ちしかなこうめい
蠮螋の斧振り上げて後ずさり遊仙

春眠に意識過剰の肩を貸す清
(了)

*2年にわたって、掲載してきました季節の俳句は、今号を持って終了とさせていただきます。四季折々の句を選んでいただきました、選者の磯崎清氏に厚く御礼申し上げます。

相談電話受信件数

受信月受信件数相談員数(延)

9月 1,611件 454人

10月 1,694件 477人

11月 1,617件 438人

12月 2,050件 521人

注)12月はフリーダイヤル「自殺予防」の件数 499件、延べ人数 109人含む

<ありがとうございました>

日本キリスト教団大阪教会様 10万円

脇坂尚子様 20万円

【編集後記】

2002年、初めての号です。

昨年は、世界中を震撼とさせる、形を変えた新たなる戦争が起きました。加えて、先
の见えない不況。人々は、不安や孤独感を募らせます。「自殺予防いのちの電話」の
受信内容からは、今の社会の現状が垣間見えてきます。「いのちの電話」の果たす役
割と使命は、これからますます重要なものとなるでしょう。我々もまた気持ちを新たに

して紙面作りに携わっていきたいと思います。N.K
*「風」は今号都合により休載させていただきます。

社会福祉法人関西いのちの電話

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL.06-6308-6868FAX.06-6308-6180

発行人今村一之

編集報編集チーム

2002.2.1・いのちの電話・No.111